



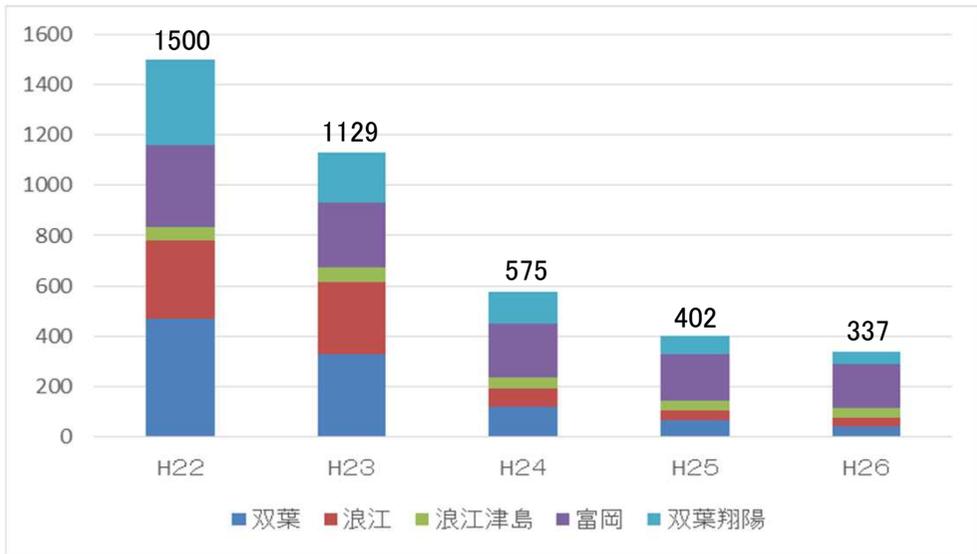
未来創造型教育

～ 原子力災害からの復興を果たす
グローバル・リーダーの育成 ～

平成27年4月28日

福島県立ふたば未来学園高等学校

双葉郡内の高校の生徒数の推移



双葉郡を含む福島県浜通り地区の新たな取り組み

福島県「浜通り」地域の新たな産業基盤の構築や広域的視点でのまちづくりを目指し、福島・国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想の検討が行われるなど、世界と連携した原子力災害からの復興、新産業の創造が進む。

(例)

【国際廃炉研究開発拠点(放射性物質分析・研究施設)】

廃炉研究の中核施設として、世界の研究者が集まり研究を実施

【ロボット開発・実証拠点】

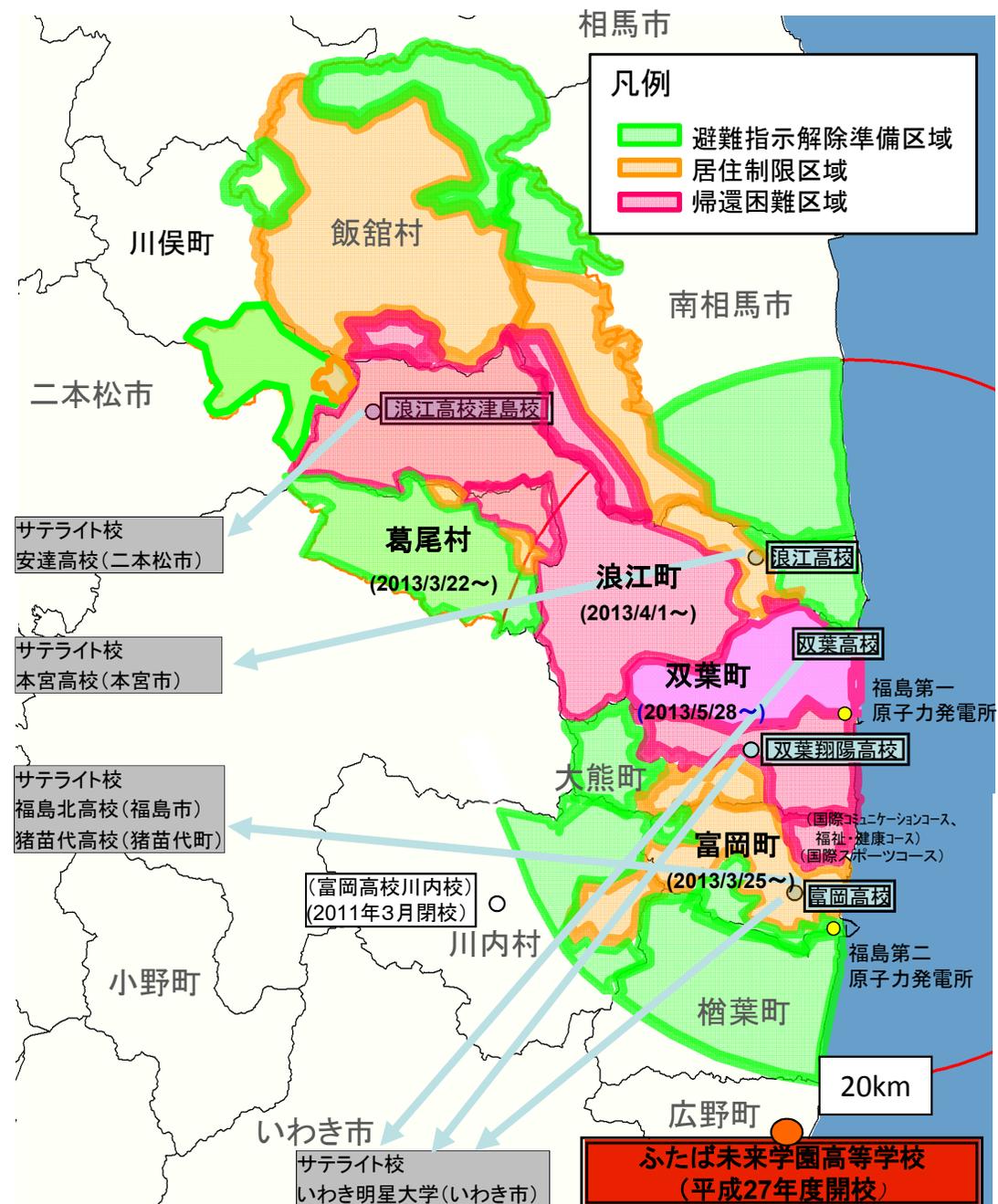
廃炉作業等屋内を想定したロボットの試験施設や、災害対応ロボットの研究・実証施設を設置



【その他】

- 国内外の機関が結集して教育・研究や、原子力災害の教訓を世界に情報発信する国際産学連携拠点
- エネルギー関連産業やスマート農業等の新たな産業の集積 等

双葉郡内の高校の避難状況



※サテライト校となっている5校については、平成27年度より募集休止(在籍生徒の卒業後休校)

○ 福島県双葉郡の県立中高一貫校設置に関するこれまでの経緯

- 双葉地区教育長会が主催する「福島県双葉郡教育復興に関する協議会」（平成24年12月設置）において、25年7月末に、県立中高一貫校の設置を柱とする「教育復興ビジョン」を決定・公表。県と双葉郡地方町村会との協議の結果、中高一貫校については平成27年4月開校とされ、設置場所については広野町に設置されることが決定。
- 双葉地区教育長会では、ビジョンの検討と同時並行で、「双葉郡子供未来会議」を実施。子供たちの考える双葉郡の教育として『動く授業』『世界とつながる』『夢を見つけるたくさんの「小さな窓」』等のキーワードが生まれた。
- 双葉地区教育長会主催の「双葉郡教育復興ビジョン推進協議会」（25年11月～）でビジョンの推進に向けて具体的な検討を行うとともに、県主催の「中高一貫校に関する検討会」（25年12月～26年6月）で教育課程等について検討。



福島県双葉郡教育復興ビジョンの概要

【総論】

- 震災・原発事故による課題や状況は町村毎に様々だが、8町村教育委員会は「いかなる状況下でも子どもたちの学びを保障する」姿勢で一致し、連携して今まで以上の教育を進める。
- 双葉郡・日本・世界の未来に貢献する人材を育成することを目指し、双葉郡の抱える課題の解決につながるとともに、魅力的で特色があり、世界に誇れる教育復興を進める。
- 上記の考えのもと幼稚園、小学校、中学校、高校、高等教育機関への接続も含めて一貫した考えで人材育成を行うことを目指す。

【中高一貫校の設置】

- 双葉郡内に進学先となる高校を確保することが必要である。6か年を効果的に活用するため、併設型中高一貫校を新たに設置することを求める。（区域外就学している中学生のための受け皿としての役割も果たす。高校段階では各町村立中学校からの入学生も受け入れる。）
- 大学に進学できる学力に加え、双葉郡復興に貢献し、世界でも活躍できる「強さ」を併せ持った人材の育成を目指し、アクティブラーニング、ふるさと科、留学等を取り入れた教育内容とする。
- 平成27年度の開校を求める。国に対する継続した支援（ハード・ソフト両面）を求める
- 双葉郡の復興の先がけとして、①平成27年度の開校に対応可能、②多くの子どもたちが就学可能（保護者の理解や交通の便）という要件を満たす南双葉に設置する。

○ 現状の分析と課題

- 双葉郡の子供たちは原子力災害による避難で県内・全国に離散。大きな喪失経験など様々な感情を抱えながら、転校を繰り返すことによる環境の変化から本来の個性や能力を発揮し切れていないことなども指摘されている。
- 一方で、見通しの見えない地域復興を担おうとする意欲、世界に復興へ向かう現状を発信したいという意欲、各種支援への感謝から世界のために海外で働きたいという意欲の高さは特筆すべきものがあり、本校面接時の志望動機からもその傾向が顕著に見える。

【志願理由書・面接より抜粋】

- ✓ 震災後、たくさんの人に助けていただいた。今度は私が多くの人の役に立ちたい。
- ✓ 父は原発の作業員で除染をがんばっています。祖父は左官で震災で壊れた家を直しています。僕も憧れの二人ようになるのが夢です。
- ✓ 震災で故郷を離れることになったが、この学校に入り、復興に貢献できる人間になりたいという強い思いがあります。
- 連携中学校では「ふるさと創造学」において、復旧を超えた復興、世界と協同した新たな価値の創造を目指した実践的な学習を展開し、解のない課題に積極的に取り組む資質・能力が育成されている。
- 本校の募集には定員の120名を上回る152名の出願があり、上記のような課題を意欲へと転換した、次代を担うリーダーとなり得る子供たちが入学。

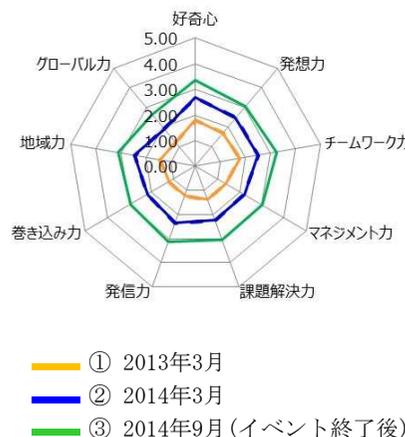
○ OECD東北スクールの成果をいかす

- 双葉郡をはじめとした東北の中高生は、国際的イベント企画、企業訪問での協力依頼、地域での商品開発等を行った。
- 生徒の復興への強い動機と、実社会での実践が、大きな成長へとつながった。(第3回教育課程特別部会 H27 3/1 にて報告)

成長要因の分析

1. 他地域の生徒との交流 (71%)
2. 異学年の生徒との交流 (56%)
3. 地域の将来・未来に対する議論・活動 (54%)
4. 企業・団体への訪問・プレゼン
5. LL (引率教員) との交流
6. EP (企業等の支援者) との交流
7. 講師・有識者との交流
8. 地域コミュニティとの交流
役割に対する責任
9. 大人・子ども対等での議論

※ ルーブリック評価における生徒自己分析での「成長要因」の上位回答



○ 研究開発の仮説

- グローバルな協同なくして成し得ない原子力災害からの復興という大きな課題に対して、真正面から向き合い乗り越えるためには、グローバル・リーダーに求められる思考力・判断力及び発信力・チーム力の育成が不可欠である。具体的には、下記のような研究開発単位(コンピテンシー)に着目した取り組みを行っていくことが有効である。
 - I グローバルな視点を持ち、生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力
 - II 復興に向けた諸問題を解決するために必要な思考力と判断力、創造力
 - III 多面的・多角的に考察し、他者を巻き込む力(チーム力)
 - IV プレゼンテーション能力や表現力(発信力)
- 上記の力は、「ある事柄を知っているのみならず、実社会や実生活の中で知識・技能を活用しながら、自ら課題を発見し、主体的・協働的に探究し、成果等を表現していけるよう、学びの質や深まりを重視*」した主体的・協働的な学び(アクティブ・ラーニング)で学び取っていくことが必要。
- 実際の復興の課題に対して、実社会や世界と協同して取り組む実践的な学習を通して、復興への意欲を持った双葉郡の子どもたちが、グローバルリーダーとしての資質・能力を身に着けることへとつながる。

* 中央教育審議会総会(第95回、平成26年11月20日)
資料1「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(諮問)」抜粋



未来の「変革者」たち

- ・ 知識基盤社会、グローバル化、少子高齢化が進行した社会で、自由で豊かな人生の実現。
- ・ 集中から分散へ。画一から多様性へ。 ・ 人権が尊重された平和な社会の実現。
- ・ 若者の力を生かした地域、コミュニティの真の自立。循環型の、持続可能な社会の実現。

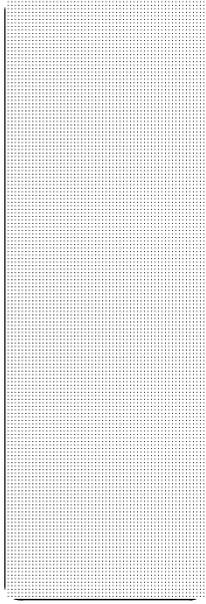
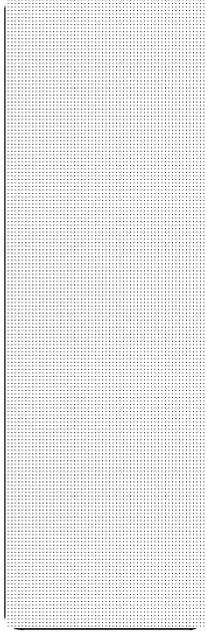
イノベーションによる新たな産業の創造

新たなまちづくり

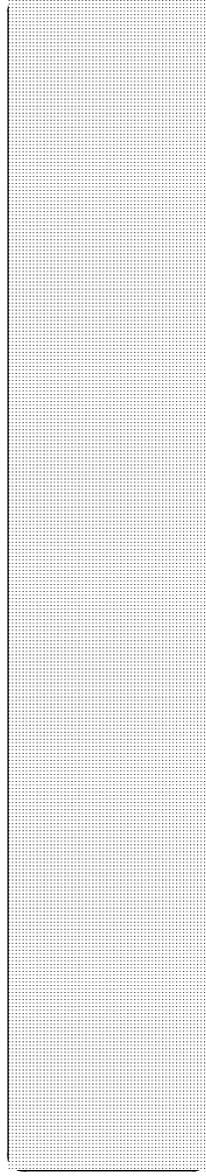
地域再生のモデルを世界に発信

変革のための3つの理念

- 1 「自立」～自主・自律と、主体性の回復
- 2 「協働」～多様性の中での共生、協働



- 3 「創造」～新たな価値、生き方、社会の創造



未来学園 7つの挑戦

- ① 「ふるさと創造学」などでの、実社会での実践をとおして学ぶ課題解決型・探究的学習 (アクティブラーニング)
- ② 生徒が教え合い、学び合う、「共同学習」の導入
- ③ 「反転授業」や習熟度別指導などによる、学び直しと発展的学習に対応する個別指導
- ④ 「みらいカフェ」や「みらいラボ」から始まる、自由で地域に開かれた学校づくり。流動性のある人間関係。地域住民や企業ともにつくる学校。放課後も含めた学習支援
- ⑤ 原子力防災、再生可能エネルギー等の課題を研究し、地域再生への取り組みを実践
- ⑥ 海外研修やICT活用での国内外との交流・発信を通じたグローバル・リーダーの育成
- ⑦ 関係機関との連携による、オリンピックなど世界を舞台として活躍するアスリートの育成

双葉郡内の中学校との連携

県内の他の高校との様々な連携

地域コミュニティ

ふたばの教育復興応援団

国内外の企業・NPO等

双葉地区教育復興ビジョン推進協議会

地方創生イノベーションスクール2030

福島大学をはじめとした大学、研究機関、国

スーパー・グローバル・ハイスクール

○ 教育課程等

中高一貫教育を行う総合学科（中学校は平成31年度開校予定）

○3つの系列

【アカデミック系列】

大学進学に必要な科目を選択し、学習する。

【トップアスリート系列】

サッカー や バドミントンなどの競技で高度な技術を体得する科目を選択し、学習する。

【スペシャリスト系列】

農業、工業、商業、福祉に関する科目を選択し、学習する。

| ◆教育課程表 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|------|---------------|----|------------------|------|---|------------|---------|-------------------|----|------|----|-------------------|----|------------------|----|-------------|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-------------|-------------|-------------|
| 必履修科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校必修科目 | | | | | | | | | | | | | | | 選択科目 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 年度 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | |
| 1年 | 国語総合 | | | | 数学Ⅰ | | | 科学と人間生活 | | 体育 | | 保健 | 音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ | | コミュニケーション 英語Ⅰ | | 産業社会 と人間 | | 選択科目 | | | | | | | | | | L H R | | |
| 2年 | 体育 | | 保健 | コミュニケーション 英語Ⅱ | | | 学校設定 科目 | | 総合的な 学習の 時間 | | 選択科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | L H R | |
| 3年 | 体育 | 総合的な 学習の時間 | | | 選択科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | L H R |

○ ふたばの教育復興応援団

- 「前例なき環境には前例なき教育を」の想いで、各界の有志による「ふたばの教育復興応援団」のメンバーによる、ふたば未来学園高等学校や、双葉郡内の小中高校のカリキュラムに協力。

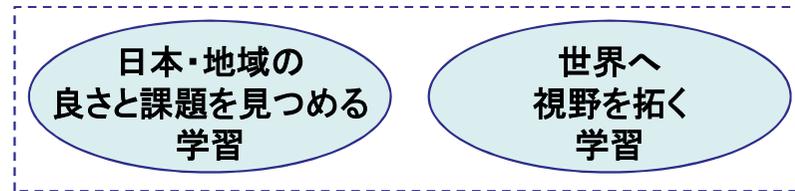
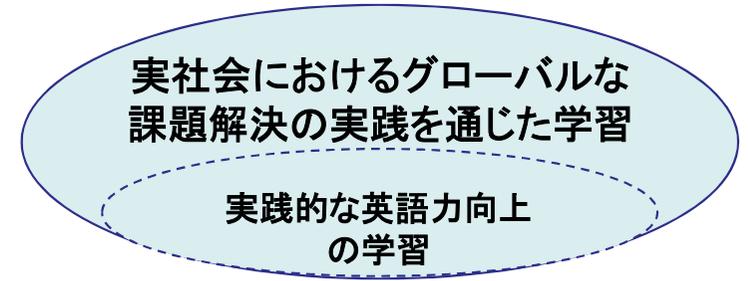
秋元 康 （作詞家）
 安藤 忠雄 （建築家）
 伊藤 穰一 （MITメディアラボ所長）
 乙武 洋匡 （作家、東京都教育委員）
 小泉進次郎 （復興大臣政務官、衆議院議員）
 小宮山 宏 （三菱総合研究所理事長、元東京大学総長）
 佐々木 宏 （クリエイティブディレクター）
 潮田 玲子 （元オリンピックバドミントン選手）
 為末 大 （一般社団法人アスリートソサエティ代表理事）
 西田 敏行 （俳優）

橋本 五郎 （読売新聞特別編集委員）
 林 修 （東進ハイスクール・東進衛星予備校現代文講師）
 平田オリザ （劇作家・演出家、東京藝術大学特任教授）
 宮田 亮平 （東京藝術大学学長）
 箭内 道彦 （クリエイティブディレクター）
 山崎 直子 （宇宙飛行士）
 和合 亮一 （詩人）

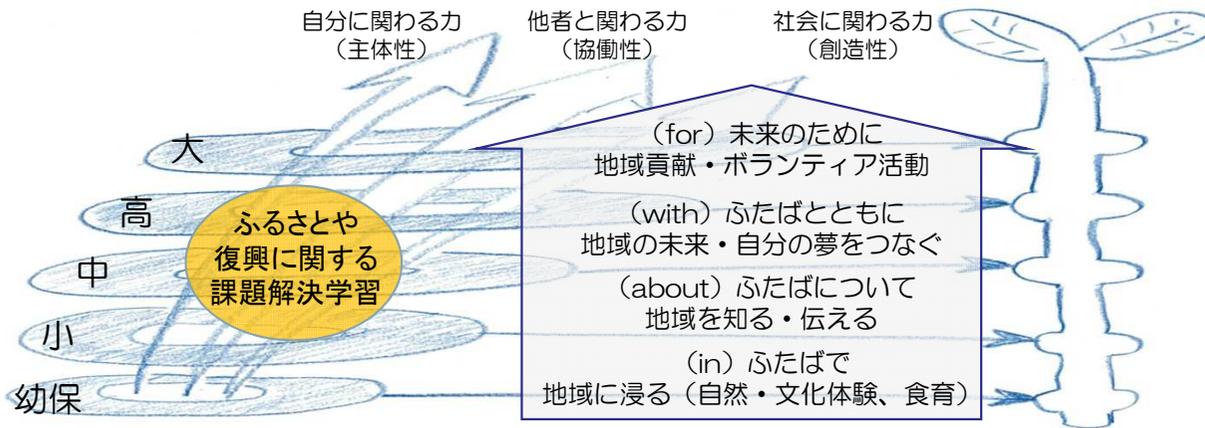
○ テーマ 原子力災害からの復興に関する研究 ～グローバルな視点からのふるさと創造を目指して～

- 福島県及び企業・関係団体、大学・国際機関と連携し、グローバルな課題である「原子力災害からの復興」をテーマの中心に据え、その原因、背景、過程について同種事例なども参考にしつつ、研究・検証し、グローバルな視点から地域課題の解決及び地域再生を図る。そのことが、ひいては福島とつながる世界の課題を解決することにもつながり、世界に貢献するグローバル・リーダーの育成を目指す。
- アクティブ・ラーニングや研究成果発表を通して、生徒の思考力・判断力・創造力・表現力等の育成を図る。特に、実際の復興の課題に取り組む実践からの学習を重視するほか、グローバル・リーダーを育成する目的から、実践的な英語力の向上を図るとともに、英語によるコミュニケーション能力を育成し、海外研修を通して世界の人々へと研究成果を発信し、広く交流する。また、連携中学校の「ふるさと創造学」を発展させた学習も行う。

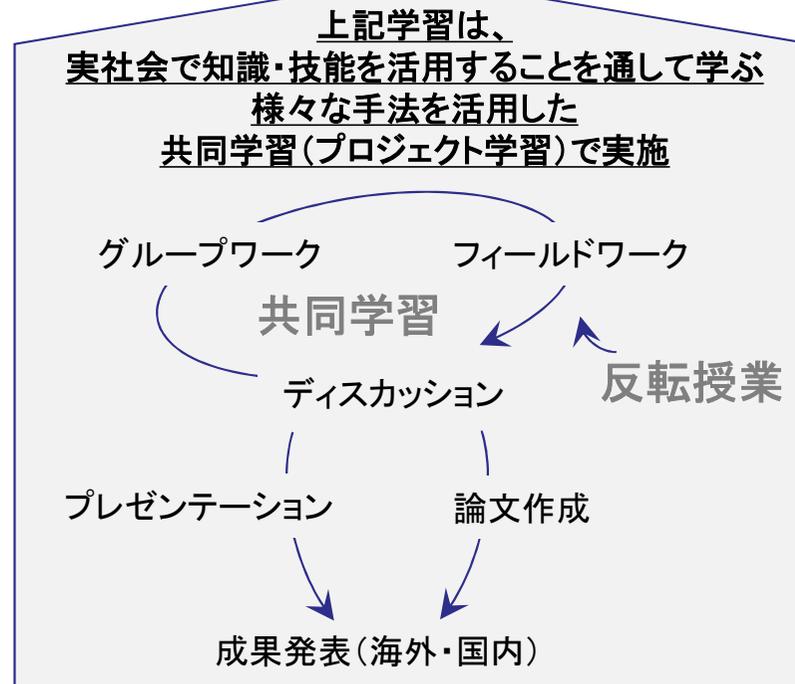
○ 学び方のイメージ



参考：ふるさと創造学(双葉郡8町村の全校で連携して実施)

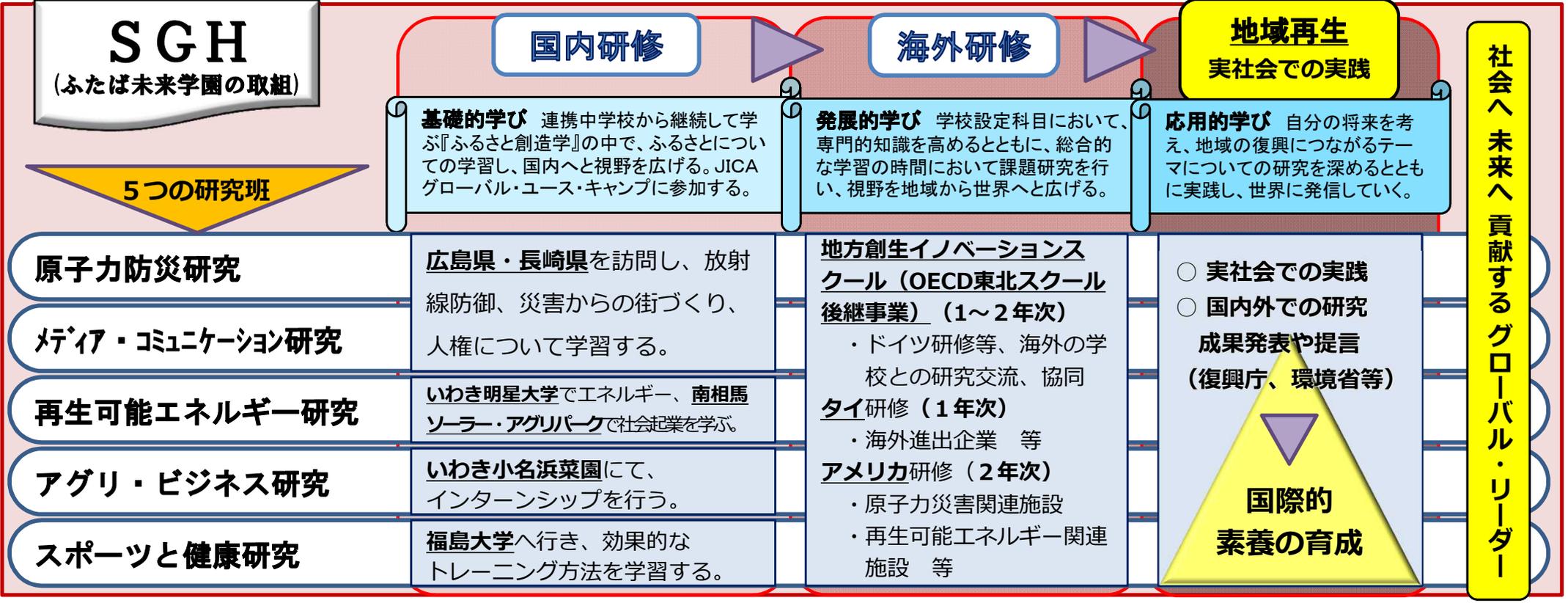


- ふるさと(日本)のよさや伝統文化の理解を深め、世界に拓かれた未来の創造を構想する学習を、幼小中高大で連携して実施している。
- 各学校段階で、ふるさととの関わり方が段階的に深まる学習を実施。高校段階では地域に貢献する活動を通して、地域の未来と、自らの将来像を重ね合わせて考え、自律的なキャリアデザインを描けるようにしている。世界との協同なくして成し得ない双葉郡の復興に向けて、国際的な将来ビジョン・キャリア形成につなげていく。



5 SGHとしての取り組み（2）

- 国内研修から海外研修へと世界へ視野を広げるとともに、未来創造へ向けた実践を通して学んでいく
- OECD、JICA、福島大学、地域内外の企業、イノベーションコースト構想関連機関等との密な連携を行っていく。



各学年次での実社会での実践を通じた学習

「産業社会と人間」2単位

- ◆ ふるさと創造学として、地域の復興の課題を多面的に見つめ、復興への取り組みを実践することを通して、自らの生き方を考える授業
- ◆ 平田オリザ氏の指導を受けながら、地域をフィールドワークし、復興に向けた課題を演劇として表現する
- ◆ 「地域とアート」「地域と祭り」「地域とスポーツ」等のテーマごとに分かれ、ふたばの教育復興応援団の指導を受けながら地域復興の実践に取り組む

「学校設定科目」2単位、「総合的な学習の時間」5単位

- ◆ 5つの研究班に分かれ、学校設定科目で関連する知識を学びながら、総合学習の中でグループでの研究・実践や、個人研究に取り組む
- ◆ 風評被害の払拭に取り組む農家での就業体験
- ◆ 総合学科研究発表会での発表
- ◆ 福島・国際研究産業都市(イノベーションコースト)構想との連携
- ◆ OECD地方創生イノベーションスクール2030への参画を通じた、海外の高校等との研究交流 等

